NIAS

Nagasaki Institute of Applied Science

2012
JANUARY
学　報
No.98

編集・発行：入試広報課

特集
- 新春座談会
- クラブ・サークル紹介

2012年　創立70周年を迎えます。

長崎総合科学大学

URL　http://nias.jp/

新春座談会

「記念すべき節目の年」を迎えて

今年、学校法人長崎総合科学大学は創立70周年、附属高等学校は創立50周年を迎えます。大学では産官学連携の一層の推進、附属高校ではスポーツを通じての人間力形成への取り組みなど、新たな飛躍を期して将来への礎を築くべく取り組んでいます。

新春を迎えるにあたって、これからの学園づくりについての所感や学内での様々な話題などについて語り合う新春座談会を開催しました。

司会

年頭にあたって、理事長より一言抱負をお願いします。

行徳理事長

皆様健やかに新年をお迎えのことをお慶びを申し上げます。昨年中は、保護者の皆様をはじめ、同窓生の皆様、県、市をはじめ関係機関の皆様には、本学の運営に多大なご支援をいただきお礼を申し上げます。

昨年は、東日本大震災の発生により想像を超える大きな被害がもたらされました。本学関係者の皆様の中にも被害に遭われたとの情報も聞き及んでおり、一日も早い復興をお祈りいたします。自宅などが被害に遭った本学の学生もいましたが、学校としてはできる限りの支援を行い、今は元気に勉学に励んでおります。

さて、今年は、学校法人長崎総合科学大学が創立70周年、附属高等学校が創立50周年を迎えます。昭和18年に財団法人川南高等造船学校として開校以来、時代の変革の中で幾多の変遷をたどり歩んでまいりました。これもひとえに皆様方のご支援、ご鞭撻のおかげであり、厚くお礼を申し上げます。また、附属高等学校は創立50年という大きな節目の年でもあります。

少子化など私学を取り巻く厳しい環境の中ではありますが、教職員の皆さんと共に知恵を出し合い、新たな飛躍が図れるよう頑張ってまいります。

司会

学長、校長から今年の抱負を聞かせてください。

貴島学長

まず教育の分野に関して申し上げます。本学は創立時には造船と機械の分野から始まり、現在では3学部7学科を擁する大学に成長してきております。創立時から〝ものづくり〟教育が大きな柱として実践されてきておりますが、今年も本学の教育の基本方針である〝ものづくり教育力〟の向上に力を注ぎたいと考えております。ものづくり教育で最も大事なことは、考える力、すなわち思考力の育成にあります。社会に役に立つ人材の育成にはその基本として、学士力の育成すなわち学力、理解力そして人間力の育成を中心にして、特に、基礎学力と専門分野の基礎力育成に重点的に取り組んで参りたいと思います。学力育成に関しては、きめ細かな指導とともに優しさと厳しさが大事と思います。

もう一つは、大学における学生の満足度向上に努めることです。学生生活に関しては、各学科の担当教員の学生指導への更なる取り組みをはじめ、学生生活支援センターや学習支援センターの取り組みを強化していくことが不可欠であると考えております。

行徳理事長

玉城校長

附属高校は、昭和37年、ここ網場の地に長崎造船短期大学附属高校として開設されました。昭和40年長崎造船短期大学の大学昇格により校名を長崎造船大学附属高等学校に改称し、更に昭和53年大学名の変更により長崎総合科学大学附属高等学校と改称し今日に至っております。50年の節目の年を迎え、いよいよ4月からは51年目の新しい時代の幕開けとらえております。10月に実施される大学創立70周年と合同での記念式典が楽しみに待たれるところです。教育の在り方については、これまで通り「みんなの個性と笑顔が輝くキャンパス」をモットーにして、一人ひとりの個性を尊重しながら粘り強い教育を実践していきたいと思います。この1、2年、強化指定クラブの充実と学校行事の取り組みから生徒達も自信を持った言動が出来るようになってきました。50年目の手応えとして力強さを感じているところです。

司会

今年の大きな学校行事である創立記念事業について聞かせてください。

行徳理事長

昨年、大学の同窓会・後援会や附属高校の同窓会・育友会の皆さんとともに「長崎総合科学大学創立記念事業会」を立ち上げ、記念行事の進め方や記念事業の内容などを検討してきました。記念行事・記念講演会は、今年10月13日㈯に長崎ブリックホールで行う予定です。記念事業は、シーサイドキャンパスグランド整備や情報機器の整備などを行う予定ですが、創立記念事業の特別企画として、昨年12月1日から4日に小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル展を開催しました。

創立記念事業を成功させるために、皆様に募金(寄付金)のお願いを行っております。ご支援とご協力を切にお願いします。

司会

「はやぶさ」の展示は本県で初めての開催であり、大きな反響がありました。報道機関や来場者の皆さんから「なぜ、本学で開催できたの」と尋ねられました。

貴島学長

本学は以前より船舶工学科と機械工学科を中心にJAXA(宇宙航空研究開発機構)との交流がありました。共同研究や学生のインターンシップなど今日まで種々の交流があったから、「はやぶさ」展示も長崎県の会場として本学が選定されたものと思います。このはやぶさ展示は本学の創立70周年記念事業の一環として開催されたものですが、非常にタイミングが良かったと思います。地域の小・中学校では宇宙への夢を持たせたいということで、学校行事として多くの子供たちに参加していただきました。開催期間中に約6千人の入場者があり、見学した方々の評価も高く、開催してよかったと安堵しているところです。また、最終日にはJAXAの協力により「JAXAタウンミーティング in 長崎」も開催しました。

司会

近年、大学は地域との連携に力を入れていますが、本学の研究成果を生かした産官学連携の進捗状況はどうですか。

貴島学長

大学の大きな使命の一つに社会貢献があります。この社会貢献、地域貢献に関しても本学は力を注いでおります。長崎県が主催している「長崎〝新生〟産学官連携コンソーシアム」(略称NRC)のプロジェクトの一つとして、本学が提唱しております〝東長崎エコタウン構想〟に取り組んでおります。

本学では、平成21年より東長崎エコタウン研究会を実施してきましたが、平成22年に〝東長崎エコタウン構想〟を掲げて、地域連携研究会を実施して参りました。その結果、平成23年に、経済産業省の「スマートコミュニティ構想普及支援事業」や、ハウステンボスにおける次世代エネルギー実証事業と連携した文部科学省「緑の知の拠点事業」に採択されました。中でも後者は全国でわずか2件の採択ということで大変厳しい審査の中で、幸いにも本学が提案する新しいエネルギー開発に関する研究課題が取り上げられることになりました。今年はこの研究成果を一つずつ出していくことが求められます。

この他、長崎県との人材育成包括協定や長崎県中小企業団体中央会と包括的産学官連携協定を結んでおりまして、一昨年以来、高度溶接管理技術者養成講座、組込制御技術者研修などを一般社会人向けに実施してきており、既に約150名が受講しております。

出席者
行徳　威夫　理事長　　貴島　勝郎　常務理事、学長、工学博士
玉城　保美　理事、附属高等学校校長

司会
今、お話があった「東長崎エコタウン構想」について具体的な内容を教えてください。

貴島学長
この構想は、低炭素社会に向けた未来型エコタウンをつくり、実証実験を行うことを目的にしています。この未来型エコタウンでは、「CO2と廃棄物の発生が少ない町」、「人と自然と技術が共生する町」、「安全で安心して暮らせる町」の実現を目指して、地域の皆さん、企業、自治体そして大学が共同して研究を進めるというプロジェクトです。

先に紹介した文部科学省「緑の知の拠点事業」で本学が取り組んでいるテーマは、「次世代グリーンエネルギーデバイスのシミュレーションモデル化と学内マイクログリッドを用いた評価・検証試験」というものです。この研究は大学内に小規模なスマートグリッドシステムを構築して大学が研究開発を行っている、バイオマスエネルギー、潮流発電、ドット型燃料電池、次世代リチウムイオン電池、コジェネ太陽光発電の評価、検証実験を行いハウステンボスでの電力需要抑制実証研究と連携しながら、自立型の次世代エネルギーシステムの構築を目指すものです。将来的にはこれらの資源を利用した電力を地域の皆さんに供給できるシステムづくりが出来ることを期待しております。このため、本学では学部・学科横断的に多くの教員を結集して取り組んでいるところです。

昨年想像を絶する規模の東日本大震災とそれに起因する福島原発事故に遭遇した我が国では、特に新しいエネルギー資源の開発が急務の状態です。本学の東長崎エコタウンプロジェクトが大きな成果を生み出し、長崎のみならず日本全体に本学の成果が貢献できればと願っているところです。

司会
全学的に進めている中期経営計画の推進状況はどうですか。

行徳理事長
中期経営計画は、在学生、保護者の皆さんから選ばれる学園づくりを行うために策定しています。その内容は、「選ばれる大学（高校）づくり」「教育環境の充実」「地域貢献」「国際化の推進」などの分野から125の具体的施策を掲げ、全教職員が一丸となって改革・改善を行っています。これらを一つひとつ着実に実行に移すことにより皆さんから信頼される大学運営や教育ができると考えています。本学では年2回のヒアリングを通じてその進捗状況を評価しており、本学の目標の明確化や教職員の意識改革にも役立っていると思っています。

司会
昨年は電気電子工学科の医療電子コースの学生が初めての卒業を迎えましたが。

貴島学長
医療電子コースの第一期生が卒業しました。就職もよく、資格が取れることもあり大変人気のある学科です。第一期生の中で臨床工学技士の国家試験を受験した者は18名ですが、そのうち13名が合格しました。今年は100％の合格率を目指して学生・教員一丸となって頑張っているところです。臨床工学技士を選択しない学生は医療機器メーカー等に就職しておりますので、将来的には、先端医療における高度な医療機器の開発に従事できることからも人気の高いコースになっております。

貴島学長

司会
昨年、スポーツ分野では大学のサッカー部が新たに強化されました。

行徳理事長
大学には体育会系・文化会系を含め、約30のクラブがあります。この中で、サッカー部を強化しようということで小嶺総監督とともに元V・ファーレン長崎の選手兼コーチをしていた八戸新監督を迎え、新生サッカー部が誕生しました。1年目は部員数が少ないこともあり、県内大学リーグで3位でしたが、来年度は部員数の増加が見込まれており県内大学リーグ優勝と九州リーグ参入を目指して頑張ってくれると思っています。

司会
昨年は附属高校生のスポーツ活動も大きな話題になっています。

玉城校長
強化指定クラブ制度をスタートして今年で3年目となります。サッカー部、野球部、ヨット部を強化して来ましたが、徐々にその成果が表れております。特にサッカー部は、昨年度県新人戦初優勝、高総体、選手権の優勝はならなかったものの県一部リーグで優勝し、もう少しで九州プリンスリーグに手が届くレベルに成長しました。ヨット部も高総体団体優勝は逃したものの個人戦では九州大会やインターハイ、国体での活躍が光りました。野球部も県大会での上位入賞は果たせませんでしたが、地区大会や県大会での活躍は新聞でもたびたび話題となりました。今年度からバレーボールを強化指定クラブに追加し、早速その成果が春と秋の県大会でベスト8という形で発揮されました。今年は附属高校創立50周年の年であり、各クラブともその記念すべき年の優勝、全国大会出場を目標にしてこの正月休みも強化合宿、遠征に励んでいるところです。

司会
最後に、一言お願いします。

行徳理事長
記念すべき節目の年を迎え、長崎総合科学大学・附属高等学校ここにありと言えるようないろんな話題を提供し、存在感を高めてまいります。併せて、選ばれる学園づくりを目指しあらゆる面を検証し、改革を行っていく年でもあります。これからの時代を見据えて日々精進してまいりますので引き続き皆様のご支援をよろしくお願いします。

玉城校長

学校法人
長崎総合科学大学創立70周年
附属高等学校創立50周年

記念事業のご案内

2012年、学校法人長崎総合科学大学は創立70周年、長崎総合科学大学附属高等学校は創立50周年を迎えます。これにともない、記念行事ならびに記念事業を予定しております。

つきましては、皆様に趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。詳細は今後、本学広報誌ならびにホームページ等でご案内させていただきます。

1　記念行事
記念式典及び記念講演会
平成24年10月13日㈯実施予定

2　記念事業
(1)記念行事（記念式典・記念講演会）
(2)校旗等の新調
(3)シーサイドキャンパスグラウンド整備
(4)情報機器整備
(5)記念大会の開催（ロボットコンテストなど）
(6)スポーツ振興基金の創設
(7)小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル展の開催

【募金について】
・募金目標額…1億円
・募金期間…平成23年4月から平成25年3月までの2年間
・募金願先…大学および附属高校生の保護者並びに同級生、教職員、各界会社・団体、一般有志
・募金額…法人一口5万円、個人一口1万円、保護者5千円

《記念事業ならびに募金等の詳細に関するお問い合わせ先》
学校法人長崎総合科学大学創立記念事業会（事務局：総務経理課内）
〒851-0193　長崎市網場町536
Tel　095-839-3111（代表）
　　095-838-5103（直通）
Fax　095-839-0584
E-mail　somu@NiAS.ac.jp

クラブ・サークル紹介

①活動内容・大会成績や実績
②このクラブ・サークルのココが好き
（ココが一押し）
③今後の目標
④メッセージ

本学には体育会系・文化会系合わせて30もの団体があります。
勉強もさることながら日々スポーツや文化、ボランティア活動に専念する活発な活動を行っているクラブ・サークルにスポットをあて、学生達の元気な姿をご紹介します。
各クラブ・サークルの主将（代表者）にセールスポイントなどをインタビューしました。

ペーロン部

代表者　経営情報学科　２年　釜田　涼平

①ペーロン部は長崎の伝統行事である「ペーロン」を活動とする全国の大学で唯一の部活動チームです。
ながさきみなとまつりの２日目の全国ペーロン選手権大会に向け日々トレーニングを積んでいます。
６月 深堀ペーロン大会　　７月 日見地区ペーロン大会
７月 東長崎地区ペーロン大会　　７月 全国ペーロン選手権大会
10月 ねじめドラゴンボートフェスティバル（鹿児島県）
②高校の部活のようなサークルで１人１人が本気で部活に取り組んでいます。ただの仲良しサークルではなく、みんなが真剣に、目標を持ってやっているところが好きです。
③“常勝”できるチームを作りたいです。
体力・精神力をきたえ「ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために」をスローガンにし、大会での優勝を目指します。
④部員・マネージャー、随時募集中。初心者でも大歓迎。練習で、バスケ・サッカーなどをやっているので、ひまな人は、ぜひ見学に来てください。

環境活動グループ ISO（いそ）の家（け）

代表者　人間環境学科３年　市來　宗士

①紙・電気の使用量の削減活動、地域貢献活動（公園清掃など）、学童への環境教育、環境をテーマにしたイベントへの参加。
JUMP～日本列島を軽くしよう～（鳥取環境大学との連携）、ながさきエコライフ・フェスタ（廃油キャンドルを子供たちと作りながら環境教育）、ながさき漂着ごみサミット（他大学の学生や社会人の方と合同で雪の浦海岸の清掃）　など。
②現在、１～４年生まで計36名のメンバーがいますが、上下関係が厳しくないので、学年関係なく楽しんで活動しています。
③同じような活動が続いてマンネリ化しつつあるので、他大学や社会人の団体と連携して、過去にはしてこなかった活動をしたいです。
④元々、ISO の家は人間環境学科だけのサークルでしたが、今年、工学部から１人加入しました。なので人間環境学科ではない人も気軽に見学に来てください！

ヨット部

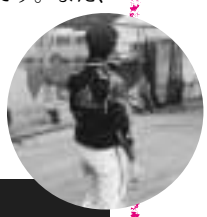
代表者　電気電子工学科２年　甲斐　智則

①基本的に土日に練習をしています。インカレ、九州スナイプといった様々な大会にも積極的に参加しています。
８／17～21）九州インカレ個人戦　11位
（古賀　理・甲斐智則・藤田大貴）
11／５）長崎県民体育大会　１位（古賀　理・藤田大貴）
②部員の仲が良いところです。みんなが気軽に話せて、とても楽しく活動しています。また、大学の近くにあるハーバーの隣には、ペンギン水族館があるので、部員たちはペンギンを見ながら出艇します。あと、艇庫には合宿所もあるので、環境は整っています。
③部員をたくさん増やして、全日本インカレの団体戦で上位に入ることです。個人戦でも、一人一人のスキルを高めて優勝を目指しています。
④ヨットが未経験の人でも大歓迎です。ライフジャケットを着るので、泳げない人でも安心して乗れます。豊富な知識や経験を持つ OB たちも一緒に指導してくれるので、すぐに上達します。気軽に足を運んでみて下さい。一緒に楽しく活動していきましょう。

準硬式野球部

代表者　経営情報学科３年　末永　昂己

①現在部員は15名ほどで、練習は火・木・土の週３回行っています。火・木は平日なので夕方６時頃からで、土曜日は午前９時頃から練習をしています。
大会は、３月の春季リーグ戦、５月の九州選手権大会、６月の九州インカレ、９月の秋季リーグ戦の計４回あります。一番大きな大会は５月にある九州選手権大会です。
②部員の数が少ないので、その分先輩や後輩との関わりが多く、お互いに切磋琢磨し合いながらやっているところが好きです。また、しょうもないことを言ってみんなの笑いを誘おうとするムードメーカー的な部員もいたりするので、そう言ったところもこの野球部の魅力かなと思います。
③とりあえず、次の大会の３月のリーグ戦でいい結果を残し、そのまま勢いを保ちつつ、５月の九州選手権大会では一つでも多く勝って長総大旋風を巻き起こせるように頑張りたいです。
④部員は多い方がいいので、野球をやりたい人はぜひ入部して下さい。初心者でも OK です。あと現在マネージャーがいないのでとても困っています。誰かやってくれる人いませんか？待ってます。



沖縄県人会

代表者　建築学科　２年　眞榮里尚義

①私達、沖縄県人会は、沖縄出身の学生が楽しく交流しています。主な活動内容は、学園祭で、エイサーを披露したり、沖縄料理を出店で出したりすることです。他にも「結婚式で踊って」や「エイサーを教えてください」などの依頼をいただいて、地域の交流にも参加協力しています。
３月 卒業式、11月 造大祭、11月 日見地区公民館まつり
②メンバー同士すごく仲がいいです。何も無い日でも飲みに行ったり、後輩は後輩らしく、先輩は先輩らしくありますが、互いに壁を作らず、何でも話すくらいの関係を築いています。他大学の沖縄出身の学生との交流もありとっても充実しています。

③沖縄の伝統の踊りをもっと知ってほしいので、今まで以上に幅広く活動したいと思っています。
④今、沖縄県人会の人数が年々少なくなっている現状です。最近は沖縄出身以外の人も入っています。県人会は昔から活動していて、この歴史ある県人会を無くしたくないので、入学した際にはどうかよろしくお願いします。

サッカー部

代表者　経営情報学科２年　町田　洸希

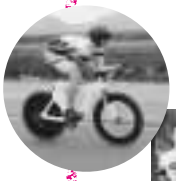
①平日は毎日練習しています。土・日は練習試合を毎週繰り返し、日々チーム一丸となって精進しています。
平成23年長崎県大学サッカー秋季リーグ：６チーム中３位（３勝１分１敗）（惜しくも長崎県立大学に得失点差で準優勝を逃してしまいましたが、22年度の６位という結果からみると大きな進歩となりました。）
②まず先輩・後輩であまり上下関係を作っていないのでとても仲が良いです。そして、監督がとても気さくな方なので選手との距離感も近く、とても良い関係を築くことができています。そして何より、監督と選手１人１人が今までより上手くなるために謙虚にサッカーに取り組んでいるところが好きです。時に“まじめ”に、時に“遊ぶ”といったチームなので、時々監督とも飲みに行ったりもします。なので、監督の前でも素で話せるので気が楽です。
③１月の選手権予選で１位になること、秋季リーグでも１位になって九州リーグへの出場を目指します。まず、長崎で１番強いチームになりたいです。今、１番のライバルは長大全学サッカー部で、１勝することが身近な目標です。

④今、そんなに選手が多くありません。しかし今いる選手達は１人１人違う個性をもった少数精鋭のチームだと思います。私は今年の５月に長総大のサッカー部に移籍したばかりですが、とても仲が良く、楽しい部活です。サッカー好きな人、サッカーをやっていた人、私達と一緒に長崎のトップ目指しませんか。

サイクリング同好会

代表者　電気電子工学科１年　田口　真也

①サイクリング同好会は自転車に関する事なら何でもやります。自転車の修理、改造、新しい部品の製作。アウトドアではオンロードのロードバイク、オフロードのマウンテンバイク、シクロクロスからママチャリまで、レースに出たり楽しくサイクリングに行ったりなど。競技グループとサイクリンググループがあります。
８／28）実業団選手と交流サイクリング
９／５）雲仙ヒルクライムタイムトライアル　１位、３位
11／３）五家原岳ヒルクライムタイムトライアル　準優勝
11／20）諫早干拓フェスティバル　インターナショナルバイクタイムトライアル（国際大会）カテゴリー別　３位
その他県内や熊本のチームと交流サイクリング数十回
②部費を徴収しない。練習がきつくない（個人差があります）。後援のショップがあり、修理やメンテナンスに困らない。ちゃっかり結果を残しているところ!!
③全部員がブルベ（一般道を使って行われ、制限時間内に完走する自転車版「ウォーキング大会」）200kmを13時間30分以内に完走できるようにする。様々な大会で「長総大サイクリング同好会は強豪」という認識を与える！



④サイクリング同好会はまだできて間もないですが、活発に活動しています。自転車に乗れない人でも大丈夫、スポーツ用の自転車が無くとも同好会には貸し自転車もありますし、格安車両も探します。兼部も可能で、トライアスロン等の競技のため自転車を使うので入りたいと言う方も大歓迎。楽しく走りたい人、思いきり体を動かしたい人、気軽にご入会ください。

コンピュータ技術研修部（CTTC）

代表者　知能情報学科２年　田羽多修司

①コンピュータに関する技術を部員同士教え合い、高め合います。ハードウェア、プログラム、グラフィック、サウンドなど様々なコンピュータ技術を追究します。
自作のパソコンを作ったり、ゲームや音楽などの製作もしています。
②部員同士で教え合うため、部員同士の仲が良く和気あいあいとした雰囲気で部活動ができ、親しみやすい部であること、先輩方と仲よくなれるので、学校生活のノウハウなどを教わることができるというところです。
③今まで通り、部員全員で高め合い、技術を修得していければ良いと思います。
また部でコンピュータ技術のコンテストなどにも参加したいと考えています。
④親しみやすく楽しい部なので、経験の有無に関わらず、まずは遊びに来てみてください。

ほかにもまだまだあります！仲間と過ごすキャンパスライフ。

体育会系クラブ

アイスホッケー部　剣道部　硬式庭球部
バスケットボール部　バドミントン部　新極真空手部
水泳部　卓球部　ヨット部　陸上部
準硬式野球部　ハンドボール部　ペーロン部
弓道部　フットサル部　バレーボール部
空手道部　サッカー部　柔道部

文化会系クラブ

映画研究部　吹奏楽部　美術部
コンピュータ技術研修部　写真部
海釣りクラブ　軽音楽部　フォーク部
音楽部　地球防衛部　造形美術部
就職準備サークル Career-Net-Cafe
（キャリアネットカフェ）

産官学連携

未来型エコタウンの構築を目指して！『東長崎エコタウン協議会』が発足

本学が提唱する環境エネルギーの地産地消モデル「東長崎エコタウン構想」を産学官が共同して推進するため11月4日、グリーンヒルキャンパスにおいて協議会の設立総会が開催された。

挨拶に立った貴島勝郎学長は「東長崎エコタウン構想を未来型の新しい町づくりのモデルケースとして全国へそして世界へ発信していきたい」と抱負を述べた。

総会では設立に関する規約が承認され、協議会の会長には、京都大学名誉教授で元学長、現新技術創成研究所長の山邊時雄教授が就任した。

続いて、「東長崎エコタウン構想」についてその概要と今後の方向性が説明された。

今回のプロジェクトと関連して、文部科学省の「大学発グリーンイノベーション創出事業『緑の知の拠点事業』」、ならびに経済産業省の「平成23年度 スマートコミュニティ構想普及支援事業」の採択課題として助成されることが報告され、これから具体的な事業推進が図られることになった。

「東長崎エコタウン協議会」は、本学がこれまで重点的に研究してきた環境に優しいエネルギーに関する技術を地域貢献に活かす為の拠点とし、県内の産官学関係団体の連携を強化しながら、地域特性にあった再生可能エネルギーの利用やスマートグリッドシステムの構築を、東長崎地区に先導的に誘導し、持続可能な社会の実現と安心・安全・快適な町づくりを目指すものとしている。

協議会発足の様子

挨拶を述べる貴島学長

『緑の知の拠点』事業キックオフシンポジウムを開催

東長崎エコタウン構想が、文部科学省の「大学発グリーンイノベーション創出事業『緑の知の拠点』事業」に採択され事業開始を記念したシンポジウムが12月17日、関係者、学生・教職員を含め約80名の参加で開催された。

熊本大学大学院教授の檜山隆氏が「マイクログリッドあるいはスマートグリッド～特定地域を対象とした自然エネルギー利用電源による電力供給システムのインテリジェント化～」と題し、再生可能エネルギーの利用状況とマイクログリッドやスマートグリッドについて解説。さらに発電されたエネルギーを運用・管理・制御する「マルチエージェントシステム」について実験データを用いて詳細に説明された。

続いて「緑の知の拠点」について、研究代表者の田中義人教授が東長崎エコタウン構想の基盤となるバイオマス発電など環境エネルギーに関する研究事例を紹介しながら、事業の基本構想を説明した。

さらに、本事業と連携して実施されている2件の関連事業についての発表がなされた。

講演する檜山氏

「東長崎エコタウン構想」とは？

本学が立地する東長崎地区に環境に優しい未来型エコタウンをつくる構想で、次世代エネルギーとして、太陽光発電や、下水処理施設でのメタン発酵技術によるコジェネシステム、バイオマス利用のガス発電施設等の利用を推進し、スマートグリッド技術によるエネルギー管理、需要抑制を行い、エネルギーの地産地消、安全安心快適な町づくりを目指す取り組み。

高度溶接管理技術者養成講座を開催

長崎県との人材育成の連携に関する協定に基づき、平成23年度長崎県産学官連携高度人材育成事業「高度溶接管理技術者養成講座」が12月に開催された。

長崎県内における基幹産業である造船業や製造業を支える高度溶接管理技術者の養成を目的とするもので、昨年度から共催で実施している。

講座は4日間の日程で、溶接材料、溶接力学、施工管理、破損例の教訓などの講義やグループ討議、発表が行われ社会人や学生計29名が受講した。

グループ討議の様子

産官学連携センター

産官学連携センターは、産官学連携事業を全学的かつ組織的な取り組みとして積極的に展開し、競争的資金の獲得、共同研究や受託研究の推進、知的財産権の取得と活用など、本学の研究成果を社会へ還元し、産業の発展に寄与することを目的とします。

「技術相談」「起業支援」「共同研究」「受託研究」「奨学寄附金」

産官学連携センター

窓口 総務経理課研究助成推進班

TEL：095－838－5116・5200

FAX：095－838－3157

公開講演会

2011年度長崎総合科学大学公開講演会を５回に亘り開催しました。多くの一般市民・関係者・学生・教職員の参加をいただきました。

第１回 知能情報学科 新しい時代の感性とデザイン

10月22日、於：グリーンヒルキャンパス

感性工学に関する二つの講演とパネルディスカッションを開催。基調講演を、筑波大学大学院教授の山中敏正氏が、感性の概要や定義を感性価値や感受性、感性研究の歴史などに項目を分けて解説。企業戦略に活用されている応用事例として、脳科学を応用したマーケティング戦略や感性工学の観点による製品開発が紹介された。

またビデオ映像により、美術館等で観賞を間接的に支持するロボットやレーザー光線を放ち障害物に当たると音が出る楽器型機械など、感性を働かせる新しい研究事例が報告され、更に脳科学的な手法による認知・心理・感性価値の研究について解説された。

また講演会に先立ち、AUTO-DESK 社の企業セミナーを開催し、３DCAD やアニメーションの応用技術の紹介を中心に、一般来場者や学生が参加し熱心に受講していた。

第２回 建築学科 住まいを創る ―その意味を考える

10月28日、於：長崎県美術館

建築家であり大阪市立大学教授でもある竹原義二氏は「素の建築」をテーマに、伊勢神宮の「白木造り」建築を見る捉え方や、茶室如庵の建材の個性を活かした造り方の分析について解説。簡素の中にも研ぎ澄まされ彩りを持つ建築であると表現された。

最近の建築は周りが大きく変わってしまい見るも無残と話し、自然の中で磨き込まれ、時間が経てば経つほど美しくなっていく建築があると紹介された。

建築を造る時のアドバイスとして、その場所に元々あったかのように周りに馴染む建築を造ること、木・石・土が持つ良さを活かすこと、手間隙をかけながら建築を愛していくことを説明された。

古い日本家屋を愛するということは、古い建築には深みがあり美しく、味わいがあることを解説。愛する建築に出会えているかと会場に投げかけた。

第３回 船舶工学科 クリーン＆エコへ 挑戦する造船技術

11月26日、於：長崎県勤労福祉会館

基調講演を国土交通省海事局船舶産業課長の今出秀則氏が「最近の船舶産業政策―世界をリードするクリーン＆エコ船舶を目指して」と題して、船舶産業政策の基本や、海事分野における日本の地位、環境問題の変遷について解説された。海運や造船の省エネルギー化には総合的な技術力が問われ、日本はその技術を有していると話された。ルール作りと技術開発を連動して、世界をリードするクリーン＆エコ船舶を目指し、次世代船舶を供給するために、NOx 削減や省エネ船、液化天然ガス燃料船のプロジェクトも紹介された。

他にも日本郵船の環境に優しい「NYK スーパーエコシップ2030」や三菱重工業の最新鋭コンテナ船「MALS14000」、大島造船所の「Oshima Eco-ship2020」、本学池上教授の「浮体式洋上風力発電」の開発及び研究事例が講演された。

第４回 機械工学科 日本の宇宙技術 ―使う宇宙、暮らす宇宙

12月４日、於：シーサイドキャンパス

「はやぶさ帰還カプセル展」の開催期間中に実施。JAXA 宇宙航空研究開発機構の坂下哲也氏が、宇宙開発と宇宙、宇宙とはどういうものかと、全般的にわかり易く写真を交えながら解説された。宇宙空間の広さや距離、太陽系の大きさ、無重力、宇宙飛行士の日常など、宇宙の定義や概要を身近なものに例えて説明された。

世界各国が参加している国際宇宙ステーションでの日本人宇宙飛行士について、様子とともに全容を説明。日本の宇宙実験棟「きぼう」での実験成果が示され、無重力空間でのたんぱく質の構造データの分析により、筋ジストロフィーやアルツハイマーなどへの効果が期待されていることと、新薬の開発研究が進められていることが明かされた。

また、国際宇宙ステーションへ物資を運ぶ輸送機（HTV）「こうのとり」の概要について、開発に携わった経験を持つ坂下氏ご自身が、その用途や特徴、仕組みを詳しく解説された。

第５回 長崎平和文化研究所 基地の島・ディエゴガルシアの歴史といま ～私たちに問いかけるもの～

12月10日、於：長崎原爆資料館

成城大学法学部教授の木畑洋一氏が、インド洋に浮かぶイギリス領ディエゴガルシア島の役割や現在・過去の問題を、参考写真などを紹介しながら解説。ディエゴガルシアを含むチャゴス諸島が、フランスからイギリスの手に渡り、米軍軍事施設のためにアメリカに島嶼借用されるまでの歴史的背景を説明された。

また、インド洋英領の誕生に至るまでの経緯や、チャゴス諸島住民の放逐、米基地の建設と島民をめぐる国際世論、帰島を願う島民とイギリス政府の闘いなど諸問題を抱える現状についても説明された。

講演後は、質疑応答の時間が多く設けられ、来場者からの質問が飛び交い、沖縄とディエゴガルシアの基地問題の比較など熱心な議論が行われた。

TOPICS ❶ 県内初『小惑星探査機はやぶさ帰還カプセル展』が盛況に開催される

小惑星イトカワに着陸し地表の微粒子を世界で初めて地球に持ち帰った小惑星探査機「はやぶさ」の帰還カプセル展が12月1日～4日、シーサイドキャンパスにて開催され連日多くの見学者で賑わった。

これは本学が創立70周年を迎えるにあたり記念事業の一環として開催。長崎県で初めての公開となった。

会場では子供から年配の方まで幅広い層の一般市民が訪れ、宇宙から帰還した実物のカプセルやパラシュート、「はやぶさ」、「イトカワ」の概要を記した解説物をじっくりと見学していた。

展示コーナーでは、工学部機械工学科の松川豊准教授が展示物を一品ずつ紹介しながら解説を加え、地球へ再突入するためのカプセルの仕掛けや開発過程をわかり易く説明し、来場者に好評だった。

訪れた見学者は「はやぶさの実物のカプセルを見ることができて感激した」、「日本の科学技術の高さがわかり素晴らしかった」と感想を話し満足していた様子だった。

また、4日には、JAXAの坂下哲也氏を講師に招いた『公開講演会』も開催され、会場は満席になり盛況に行われた。（ページ7・第4回）

はやぶさ実物のカプセルを展示

NBC テレビ「あっ！ぷる」の生放送でインタビューされる松川准教授

大勢の見物客で賑わう展示ロビー

TOPICS ❷ 市民対話型の『JAXAタウンミーティング』を開催

「はやぶさ帰還カプセル展」の開催に伴い、日本の宇宙航空開発について理解を深め、将来の宇宙科学研究や技術開発に役立てようと、JAXAと本学の主催で、〝長崎で語り合う、これからの宇宙開発〟『第69回JAXAタウンミーティング』in長崎が12月4日シーサイドキャンパスにて、多くの一般来場者、学生、教職員が参加し開催された。

JAXAの講師による話題提供と意見交換で二つのテーマで実施。はじめにJAXA理事の長谷川義幸氏が、「日本人宇宙飛行士と宇宙ステーション」というテーマで、JAXAの宇宙ロケット計画や、国際宇宙ステーションの概要と日本の宇宙実験棟「きぼう」について解説した。続いてJAXA宇宙科学研究所の橋本樹明氏が『はやぶさ』から月探査へ」というテーマで、はやぶさの打ち上げからイトカワ着陸までを詳しく紹介。更に今後計画される月着陸探査の概要と調査方法を具体的に解説した。

これらの解説をもとに参加者との意見交換会が進められ、宇宙開発の研究成果を経済効果へ波及させる案や、長崎の企業のロケット開発の参加、イトカワの微粒子の分析状況、火星探査の計画、宇宙エレベータの開発状況とその障害、などについて熱のこもった討論が行われた。

来場者と活発な意見交換が行われた

閉会後も講師に質問が寄せられる

TOPICS ❹ 経営情報学科の留学生が「第３回外国人による日本語弁論大会」で第２位に輝く

情報学部経営情報学科３年生の NGUYEN TRUONG　SANG（グエン チュオン サン）君が11月19日に長崎外国語大学で開催された「第３回～語り合おう in Nagasaki～外国人による日本語弁論大会」（主催：外国人による日本語弁論大会実行委員会、（公財）長崎平和推進協会、長崎外国語大学、（財）長崎県国際交流協会）において、見事第２位に輝いた。

発表するサン君

サン君は「恋人同士の付き合い方を通して、気づいた異文化」というタイトルでユーモアを交えて堂々とスピーチを披露。

審査員長始め、審査委員の方々から好評を頂き、本人は何度もガッツポーズをして、喜びを表していた。

参加者全員で記念撮影

TOPICS ❸ 空手道部主将が市民体育祭で優勝

空手道部主将の朝長義迪君（工学部機械工学科３年生）が10月10日に開催された第14回長崎市市民体育・レクリエーション祭において、一般男子個人組手の部で見事優勝に輝いた。

朝長君は試合を振り返り、「これまでは練習でやってきたことが本番で緊張してうまく発揮できないことが多かったが、前大会での反省点を活かして練習に励み、自信をつけてきたのが優勝に繋がった。嬉しかった。」と語ってくれた。

賞状を手にする朝長君

TOPICS ⑤「ETロボコン2011九州地区大会」で九州地区特別賞を受賞！

ソフトウェアの制御技術を競う「ETロボコン2011九州地区大会」が9月3日・4日、福岡市の九州産業大学内で開催され、情報学部知能情報学科の学生チーム「NiASET」が出場し見事「九州地区特別賞」を受賞した。

大会は福岡から鹿児島までの企業や大学、専門学校など34チームが参加。

走行競技では第1レースで順調にスタートするも中盤でコースアウトし、まさかのリタイヤとなった。第2レースでは他を圧倒するスピードでコースを廻り出場チーム中最速タイムを記録、後半のET相撲では障害物のペットボトルを押し倒して更にポイントを獲得し走行を終えた。

代表の吉元諭史君は「1回目のリタイヤが残念でした。試走では問題なく走って後半の難所もクリアし余裕でポイントを稼いでいたのに…。コンピュータの世界ではよくあることです。」とあっさりした様子で語ってくれた。

出場したNiASETメンバー

力走するNiASETのETロボット

TOPICS ⑥ 機械工学科の学生が廃材を利用してユニークな車を製作!

三輪自動車を自作した張君

工学部機械工学科の3年生張托君が、廃材などを利用してマイクロ三輪車を製作した。

車体の大きさは長さ2.5m、幅1.6m、高さ1.1mで、シャーシは鉄パイプで組み合わせ、エンジン部分は廃棄されたバイクから調達、アクセル、ブレーキ、ハンドル、ライトもあり、前輪はサスペンションまで自作した。

製作は夏休みから始め、毎日夜遅くまで取り掛かり、2ヶ月で完成したという。

ものづくりが大好きだという張君は、将来は機械のエンジニアになって、車だけではなく省エネ機器など様々な機械を作り、社会や世界の役に立ちたいと話した。

NIBテレビの取材も受けました

TOPICS ⑦「ながさきエコライフ・フェスタ」で学生が活躍

「ながさきエコライフ・フェスタ」が10月15日、長崎水辺の森公園で開催され、本学からは環境・建築学部人間環境学科と工学部船舶工学科の学生と教員が企画参加した。

人間環境学科は、「まるごと竹コーナー」や「廃油キャンドル作り」「NiAS木工教室」「私のエコ宣言」の4つのブースで実演や工作の指導を行った。木工教室では参加した子供が慣れない手つきでノコギリを使って切断したり、金鎚で釘打ちしたり、学生がサポートしながら丸木のペンダントや木箱など木工品作りに挑戦した。

船舶工学科は水辺ゾーンで、太陽光で発電しモーターで推進する「ソーラーボート」の体験試乗を行った。試乗は大人気で、子供は楽しそうにソーラーボートを操船していた。

当日は時折雨模様であったが、エコをテーマにした企業や大学、市民団体のブースと地産地消販売テントやフリーマーケットの出店が並び、休日を楽しむ家族連れで大変賑わった。

子供たちに人気のソーラーボート

人間環境学科のスタッフ

TOPICS ⑧ 女子限定「就職のためのメイクアップ講座」を開催

女子学生を対象とした「就職のためのメイクアップ講座」を12月2日、資生堂㈱長崎支社より講師を招いて開催した。この講座は就職活動だけでなく就職後も必要となるビジネスの場でのメイクアップ方法を基礎から学ぶ。

参加した学生は、プロの講師に肌や眉、髪の毛に合った色を個別に選んで頂き、一人一人丁寧な指導を受けた。普段自分が行っているメイクアップとの違いに戸惑ったり驚いたりしつつも、最後にはその仕上がりに満足していた様子だった。

3年生は初めての合同企業説明会を翌日に控えており、タイミングよく実践することになった。

資生堂の講師からメイクのポイントを学習

TOPICS ⑨ 人間環境学科の学生が学童の小学生と竹林整備

環境・建築学部人間環境学科では「竹取物語」という、ながさき県民参加の森林づくり事業に採択された竹林整備の活動を長崎市大籠町で9月10日、学童の児童（深堀小・香焼小学校）と一緒に行った。

大学生がノコギリの使い方を小学生に指導。初めてノコギリを手にした小学生は、難しそうにしながらも伐採した竹を楽しそうに切っていた。

竹林整備を終えた小学生は、「切るのは大変だったが楽しかった」と話していた。

この活動は長崎市社会福祉協議会の支援を受けて行っており、切り出された竹は「竹炭」の製作や「竹パウダー」で肥料に加工され、授産施設他で商品化する利活用が行われている。

竹林に入って竹を伐採

周りを用心しながら切り落とす

オープンキャンパスを開催しました！

2011年度のオープンキャンパスを７月17日、７月31日、９月24日、計３回開催し、今年も全国から多くの高校生、保護者の方々にご来場いただきました。

また、開催に伴う企画、準備、運営を学生スタッフが担当し、大活躍しました。

今後、個別に大学見学等を希望される場合には、気軽に入試広報課までお問合せください。

☆問い合わせ先：長崎総合科学大学入試広報課

フリーダイヤル：0120-801-253　E-MAIL：adm@NiAS.ac.jp

全国高校生アイデアコンテスト

今年もたくさんの高校生の皆さんに応募していただき有り難うございました。

第７回 デジタルメディアコンテスト

主催：情報学部知能情報学科
経営情報学科

◇ホームページ部門

テーマ「紹介ページ」

最優秀賞
宮崎県立延岡工業高等学校
伊藤晃太さん、甲斐千華さん、津山りささん

◇デジタルアート部門

テーマ「がんばろう日本」

優秀賞
宮崎県立延岡工業高等学校
大久保裕希さん

最優秀賞の受賞者は11月５日の学園祭「造大祭」に合わせて開催された表彰式に招待され、当日はそれぞれの学部より表彰を受けました。

本学の全国高校生アイデアコンテストで最優秀賞ならびに優秀賞を受賞した者は、特待生Ｂの出願資格を得ることができます。１、２年生が最優秀賞、優秀賞を受賞した場合は、受験該当年度に特待生Ｂで出願する権利を有することができます。

いずれも「ＡＯ特待生入試」での選考となります。

デジタルメディアコンテストで表彰される津山りささん

引率の先生（右）とともに記念撮影される津山さん

設計アイデアコンテストで表彰される中野勝大さん

考案した作品を解説する中野さん

第14回 設計アイデアコンテスト

主催：環境・建築学部建築学科

テーマ
「災害被災地にほしい簡易構造物」

最優秀賞
大分県立大分工業高等学校
中野　勝大さん
作品名：「suspender curten」
～カーテンによる
緩やかなプライベート空間～

☆今年の漢字「震」と「絆」～心ひとつに～

本校で毎年発表している「今年の漢字」、全校生徒にアンケートを取り、1年を象徴する1字を決定した。本校での得票率1位は「震」、2位は「絆」、昨年の文化祭はこの2文字を掲げて開催された。前回まで日本漢字能力検定協会が選ぶ漢字を2年連続で的中させ、新聞紙面でも取り上げられたため期待が高まったが、残念ながら3年連続の的中とはならなかった。ただ、災害の中で日本中により強い結びつきが生まれたことと、それが本校の生徒の心にも確実に反映されていたことは間違いないようだ。

生徒が書いた今年の漢字

文化祭で発表した「震」の漢字。「絆」も特別に小さく掲示

☆ヨット部がインターハイと山口国体に出場！

昨年8月に秋田県で開催されたインターハイ「2011熱戦再来北東北総体」に、ヨット部2年原翔吾君、畑田大智君、清水培君、小玉拓郎君がFJ級ソロ、デュエットに出場した。また、原君、畑田君は10月に開催された第66回国民体育大会「おいでませ！山口国体」のセーリング少年男子本県代表選手としてセーリングスピリッツ級にも出場。四人は、日頃の練習の成果を披露し大いに健闘した。

レースの様子

☆文化祭と体育祭

第39回文化祭「総附のきずな―心をひとつに―」が10月27～28日の二日間開催された。「原子力発電は是か非か」をテーマとしたクラス対抗討論会の決勝や2年生のクラス上演、外国語スピーチ発表会など趣向を凝らした出し物が続いた。ステージ外では模擬店の他、家庭科のエプロン製作優秀者の作品展示、各クラス担任、副担任の似顔絵コンテストなども行われた。

また、9月10日には体育祭が開催され、徒競走、障害物競走、クラブ対抗リレーと次々に演目が繰り広げられ、真剣に取り組む生徒たちの表情やあふれる笑顔が印象的な活気に満ちた大会となった。

会場を盛り上げた1年生の「総附、風林火山」

2年生のクラス上演「ふくしま新喜劇」！

☆ライブラリーフェスティバルで優秀賞と優良賞を受賞

平成23年度　第8回ライブラリーフェスティバルが11月に開催され、附属高等学校図書部が「図書館広報誌コンクール県大会優秀賞」「図書館PR大賞コンクール県大会優良賞」を見事受賞した。平成25年には、全国大会も実施される。

図書部員が製作しアレンジした飾り棚

☆餅つきで大学留学生と国際交流

総合学習の時間を利用して1年生全員が12月20日、大学の留学生と「祝餅つき体験」を行った。これは留学生との交流を通し、それぞれの国の文化や言語に関心を持ち、相互理解を深めることが目的。

玉城保美校長と生徒代表が歓迎の挨拶を述べ、留学生に母国の餅文化についてインタビューした。

チンドン屋のかわち家さんがゲストとして登場し、杵と臼でもち米をこねたり、太鼓のパフォーマンスを披露した。日本の伝統文化「餅つき」とお餅の試食をとおして、身振り手振りで会話しながら国際交流を楽しんだ。

餅を丸めながら楽しく交流

かわち家さんが「祝い餅」をパフォーマンス

NEW FACE
新入教職員紹介

①氏名　田中　俊彦

②所属・職名

環境・建築学部建築学科　教授

③趣味・特技など

旅行（イースター島などの遺跡巡りなど）、読書（最近は明治～昭和前半の古書）

④抱負など一言

「エネルギー不自由」の時代を迎え、省エネルギーは重要なテーマなので、その点を一緒に考えていきましょう。

2012年度生徒募集要項

募集定員（普通科・男女共学）……120名
入学者選抜

(1) 1次入試

一般試験

	一　般　試　験
出願条件	平成24年3月中学校卒業見込みの者および中学校を卒業した者。
出願期間	1月5日(木)～1月16日(月)　　場所：事務室（9：00～16：30）
試験日	1月20日(金)　8：30集合
合格発表	1月23日(月)　選考結果通知書を中学校へ郵送します。 掲示はしない。
入学手続期間	1月24日(火)～3月16日(金)

特待生・優待生試験（専願・併願）

	学業特待生・優待生試験
出願条件	①平成24年3月中学校卒業見込みの者。 ②成績、人物ともに優れている者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④専願：合格した場合、入学の義務がある。（併願：他校受験可）
出願期間	1月5日(木)～1月16日(月)　　場所：事務室（9：00～16：30）
試験日	1月20日(金)　8：30集合
合格発表	1月23日(月)　選考結果通知書を中学校へ郵送します。 掲示はしない。
入学手続期間	○専願：1月24日(火)～1月31日(火) ○併願：1月24日(火)～3月16日(金)

(2) 2次入試（特待生・優待生試験は推薦・1次入試で定員を充足した場合は募集しないこともある。）

一般試験

	一　般　試　験
出願条件	平成24年3月中学校卒業見込みの者および中学校を卒業した者。
出願期間	3月14日(水)～3月17日(土)　　場所：事務室（9：00～16：30）
試験日	3月19日(月)　8：30集合
合格発表	3月19日(月)
入学手続期間	3月19日(月)　結果発表後～17：00、3月21日(水)　9：00～16：30

特待生・優待生試験（専願）

	学業特待生・優待生試験
出願条件	①平成24年3月中学校卒業見込みの者。 ②成績、人物ともに優れている者。 ③学費等の免除を希望する者。 ④合格した場合、入学の義務がある。
出願期間	3月14日(水)～3月17日(土)　　場所：事務室（9：00～16：30）
試験日	3月19日(月)　8：30集合
合格発表	3月19日(月)
入学手続期間	3月19日(月)　結果発表後～17：00、3月21日(水)　9：00～16：30

2012年度　学生募集要項

■大学

項目＼制度		AO 入試 AO 特待生入試	一般入試 前期	一般入試 後期
募集定員	工学部	15名	33名	
	情報学部	10名	24名	
	環境・建築学部	10名	24名	
出願期間（消印有効）		9／1㈭～3／16㈮	1／5㈭～1／27㈮	2／14㈫～3／6㈫
試験日		随時	2／4㈯ 2／5㈰	3／11㈰
合格発表日		2／13㈪、3／6㈫ 3／16㈮、3／23㈮	2／13㈪	3／16㈮
手続期限		3／30㈮ （入学金および前期分授業料等）	3／1㈭（入学金） 3／12㈪（前期分授業料等）	3／30㈮ （入学金および前期分授業料等）
試験場		原則として本学	長崎、佐世保、五島、対馬、那覇、鹿児島、宮崎、大分、熊本、佐賀、福岡、松山、広島、大阪、東京	長崎、鹿児島、福岡、広島、大阪、東京
受験料		30,000円	28,000円	

項目＼制度		センター試験利用入試 前期	センター試験利用入試 後期
募集定員	工学部	25名	
	情報学部	18名	
	環境・建築学部	18名	
出願期間（消印有効）		1／5㈭～2／3㈮	2／20㈪～3／9㈮
試験日		—	—
合格発表日		2／13㈪	3／16㈮
手続期限		3／1㈭（入学金） 3／12㈪（前期分授業料等）	3／30㈮ （入学金および前期分授業料等）
試験場		—	—
受験料		13,000円	

項目＼制度		留学生 前期	留学生 後期	社会人・帰国生徒	編入学
募集定員	工学部	6名		若干名	
	情報学部	4名			
	環境・建築学部	4名			
出願期間（消印有効）		1／5㈭～1／20㈮	2／14㈫～2／21㈫	1／5㈭～1／27㈮	7／1㈮～2／24㈮
試験日		2／4㈯	3／11㈰	2／4㈯	随時
合格発表日		2／13㈪	3／16㈮	2／13㈪	随時
手続期限		3／12㈪	3／30㈮	3／12㈪	合格発表後3週間
試験場		長崎、福岡 大阪、東京	長崎、福岡 大阪、東京	長崎	原則として本学
受験料		14,000円		28,000円	10,000円

■大学院

平成24年4月入学者（二次募集）	
願書受付期間	2／9㈭～2／17㈮必着
学力試験	2／28㈫
面接	2／29㈬
試験場	本学
合格発表	3／8㈭ 13時大学院掲示板
入学手続期間	3／8㈭～3／16㈮

Information

■携帯電話ホームページをリニューアル

昨年11月より携帯電話のホームページを大幅にリニューアルしました。写真を増やし全体をスタイリッシュにまとめ、スマートフォンからもご覧いただけます。変更以来アクセス数が着実に伸びています。

新着トピックスなども随時更新しておりますので、新しくなった携帯電話ホームページをどうぞご活用ください。（ページ下QRコード）

■長崎総合科学大学の特待生Ａ制度

特待生Ａ　国立大学よりも安い学費

センター試験利用入試及び一般入試での成績上位者（学力、人物の優秀な者）に対して、授業料を４年間免除します。

			センター試験利用入試	一般入試
募集人員 29名＋若干名 4年間の学費合計 1,720,000円 （2011年度参考）	工学部	前期	6名以内	6名以内
		後期	若干名	若干名
	情報学部	前期	4名以内	4名以内
		後期	若干名	若干名
	環境・建築学部	前期	4名以内	5名以内
		後期	若干名	若干名

東日本大震災に係る受験生への支援措置について

東日本大震災により、被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

長崎総合科学大学は、東日本大震災で被災された方々及び福島第一原子力発電所の事故により避難されている方々に学習の機会を提供するため、2012年度の入学者に対して学費等の減免を適用するとともに、入学を希望する受験生が震災の影響により受験を断念されることがないよう、入学検定料についても免除とすることを決定しました。

【支援措置】入学検定料：すべての入試制度において、入学検定料全額を免除
学費等：罹災状況に応じて減免額を決定

【お問い合せ先】長崎総合科学大学入試広報課
フリーダイヤル　0120－801－253
ホームページ「入試情報」をご覧ください。

編集後記

はやぶさ帰還カプセル展は盛況に開催されました。実物を目の前にし、これがイトカワに着陸し広大な宇宙を旅してきたカプセルなのかと、しばし地球と太陽系、宇宙、宇宙人、UFO…と思いを馳せました。はやぶさといえばもうひとつグリーンヒルキャンパスに有名なものがあります。校門横の広場に構える「水中翼船はやぶさ」。今は余生を本学で送っていますが、現役中は網場～小浜航路を走っていたとのこと。船舶工学科を持つ本学を象徴するものとして設置してあります。船のはやぶさもどうぞお見知りおきください。（K）

11月5日・6日、学園祭が行われました。6日にはお笑い芸人のにしおかすみこさんと町田隼人さんがお笑いライブをしてくださいました。学生の皆さんはアイデアを振り絞り、たくさんの面白企画や豊富なメニューを用意し、来場者の方も楽しんで帰られました。特に面白かった企画は、両キャンパスで行われた「女装コンテスト」！可愛らしく変身した男子学生は見物でした！今年の学園祭も乞うご期待です。（I）

詳細は入試広報課または大学ホームページ（http://nias.jp）参照
問い合せ先：入試広報課
0120-801-253
E-mail：adm@NiAS.ac.jp

このＱＲコードで本学携帯電話ホームページにアクセスできます

※NiAS（ニアス）は、大学の英文名 Nagasaki Institute of Applied Science の略称です。